

人口の見通し

日本の総人口は、2008年（平成20年）をピークにその後減少局面に入っています。今後も長期的に減少を続け、合計特殊出生率が上がってもその傾向は変わらず、また、高齢者の人口は2030年までは増加する一方、生産年齢人口と年少人口は減少することが予測されています。

大野市の人口は、国の総人口が減少に転じた2008年よりも早い、約40年前から減少しています。平成30年の国立社会保障・人口問題研究所によれば、大野市の将来推計人口は、2030年（令和12年）には26,323人となり、2020年（令和2年）に比べ4,506人減少し、特に生産年齢人口（15歳～64歳）は約3,100人減少すると予測されています。

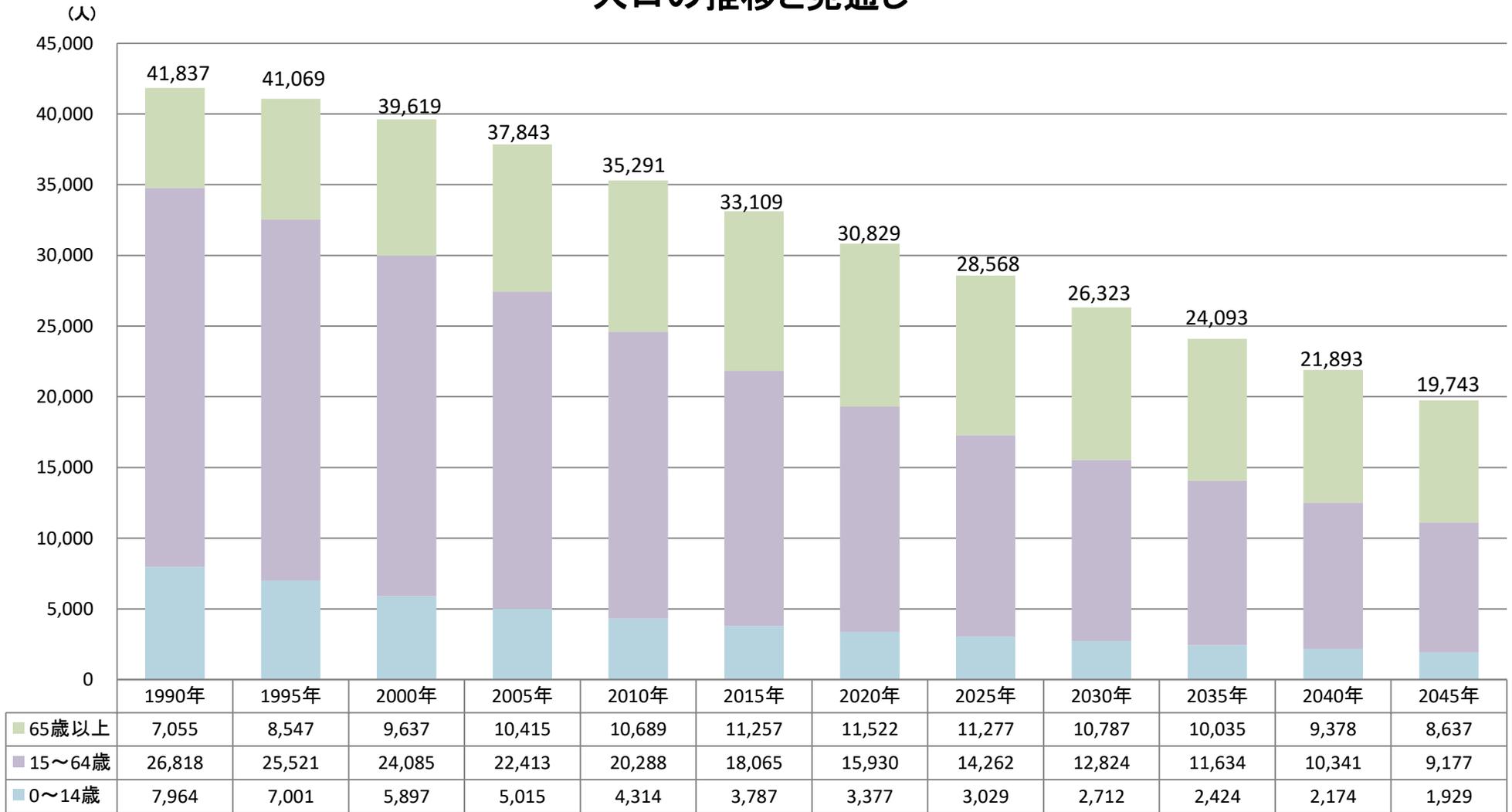
今後10年間で、中部縦貫自動車道県内全線開通や北陸新幹線敦賀開業という高速交通体系の大きな転換期を迎えるに当たり、この変化を大きなチャンスと捉え、「こども」「健幸福祉」「地域経済」「くらし環境」「地域づくり」の五つの分野が連携し施策を展開しながら、大野市人口ビジョンに掲げる目標人口に向け人口減少対策に取り組みます。

土地利用

大野市の面積は、福井県内最大の872.43km²です。そのうち約87%を森林が占めており、耕地や宅地の割合は多くありません。

土地利用については、今後10年間に、中部縦貫自動車道の県内全線開通など社会基盤の変化に伴い需要の変化が予測されることから、人口減少時代にあっても、効率的かつ安全で安心で、自然環境と調和した持続可能な利用を図ります。その基本方針は、①自然災害に対応する土地利用、②健全な水循環の維持・回復に向けた土地利用、③自然環境と開発が調和した持続可能な土地利用の3点とします。

人口の推移と見通し



← 国勢調査による実績値

→ 国立社会保障・人口問題研究所による推計値